

令和 3 年度日本股関節研究振興財団 股関節国内研修報告書

防衛医科大学校

小林 紘樹

神奈川リハビリテーション病院

佐藤 龍一

令和 3 年度日本股関節研究振興財団の国内研修助成対象者にご選出いただき、令和 4 年 3 月 7 日から 3 月 11 日まで九州地方・京都で研修をさせていただきました。本研修の成果をご報告いたします。

令和 4 年 3 月 6 日

佐賀県佐賀市入り

令和 4 年 3 月 7 日

佐賀大学医学部附属病院で研修

- ・ 午前：外来見学
- ・ 午後：THA(後方アプローチ) 2 件

佐賀大学整形外科は毎朝 7 時半からの教授回診が 1 日の始まりの業務でした。外来では、股関節専門外来を半日見学しました。年々、寛骨臼骨切り術の適応となる患者さんは減少していますが、佐賀大学附属病院では年間 40 件近い寛骨臼骨切り術(TAO)が行われていると伺いました。我々の見学中にも多くの適応患者さんが受診されていましたが、夏休みには週 2-3 件の骨切り術の予定が組まれており、全国的に患者さんからの信頼の厚い施設という印象を受けました。骨切り術の適応患者、手法、後療法に関してご教授いただきましたが、特に後療法における荷重時期に関しては我々の半分程度であることが非常に興味深かったです。翌日の手術見学で拝見した TAO において、骨盤と骨辺との接触領域が多くなるような移動手技を行っており、手

術手技に裏打ちされた後療法であることが理解できました。

午後は後方アプローチによる THA を 2 件見学しました。通常の後方アプローチによる THA でしたが、軟部組織の丁寧かつ素早い処置・オキシドールを使用した止血により出血量は大変少なく非常にきれいな術野が保たれており、勉強になりました。また後方修復においても連続縫合による後方関節包・梨状筋・短回旋筋群の修復は、早いことはさることながら解剖学的な位置に再建されており、熟練された手技に感心すると共に今後の参考にしたいと考えております。

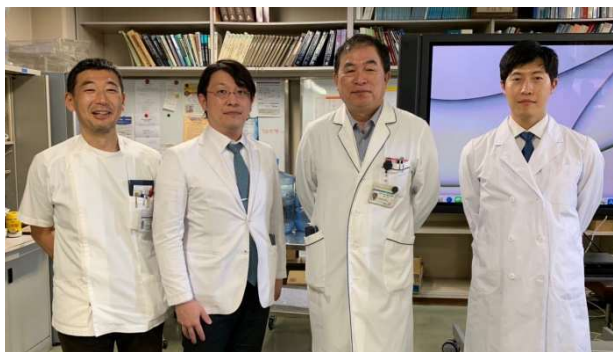
令和 4 年 3 月 8 日

佐賀大学医学部附属病院で研修

- ・ 午前：寛骨臼回転骨切り術(TAO) 2 件
- ・ 午後：revision THA 1 件
- ・ 夕方：佐賀市→北九州市へ移動

毎朝 7 時半からの教授回診後に手術見学を行いました。佐賀大学の TAO を 2 件見学できたことは大変貴重な経験となりました。手術はオリエールの皮切で展開し、大転子部の骨切りをして行う手法でした。十分な視野が確保されており、執刀医・助手が骨切り位置を把握可能でした。展開時の軟部処置では出血部を丁寧に止血しながら、所々でポスミンガーゼを使用することで出血量を減少させる工夫が行われており、術中出血量は 300cc

程度と少ないことが印象的でした。骨盤周囲の解剖を理解し、十分な術野を確保することで、X線透視を使用せずに、迅速かつ正確な骨切りを施行していましたが、術中被曝がないことは患者のみならず術者・手術スタッフへの利点が大きいと考えられました。執刀時間は1時間程度でしたが、手技は熟練されて繊細であり、股関節外科医として必要な技術を全て拝見させていただきました。改めて骨盤形態・周辺解剖を正しく習熟することの重要性を認識しております。



佐賀大学 整形外科にて

令和4年3月9日

研産業医科大学若松病院で研修

- ・ 股関節鏡視下股関節唇形成術 3件

産業医科大学 若松病院は内田宗志先生を中心として、股関節鏡手術が大変盛んに行われている病院です。内田先生を中心に整形外科の先生方は手術のみならず研究活動にも熱心に携われておりました。股関節鏡手術・THAなどの股関節手術に限らず、脛骨骨切り術などの膝関節手術も行われているようです。

今回見学した股関節鏡手術に関して、カンファレンスでは股関節周辺の解剖だけではなく、腰椎・下肢の機能的な解剖を理解して上で治療方法を決定しており、基本的なことではありますが、治療学として大変重要な考

え方を改めて勉強いたしました。学年を問わず全ての先生が手術を行っており、特に Cum-plasty をいずれの先生も迅速かつ正確に行えることに施設としての研修レベルの高さを感じました。



産業医科大学 若松病院
朝カンファレンスにて

令和4年3月10日

産業医科大学附属病院で研修

- ・ THA 2件

産業医科大学附属病院の THA ではポータブルナビゲーションである Hip Align を使用しており、1件は Mini-one アプローチ、1件は OCM アプローチで施行されました。

ポータブルナビゲーションを使用する場合に骨盤の基準座標系である Functional Pelvic Plane (FPP) が CT ナビゲーションよりも煩雑になる傾向があります。産業医科大学附属病院では、術前に側臥位固定後にポータブル X 線で骨盤正面像を撮影し、骨盤輪の横径/縦径比率から Pelvic tilt を算出することで術中の設置角を決定するといった手法を行っておりました。川崎展先生のグループが手法を文献発表しており、今後広く普及していくことが予想されるポータブルナビゲーションの使用に対して非常に有用な手技になりうると感じました。



産業医科大学 整形外科にて

令和4年3月11日

- ・ 午前：北九州市→京都市
- ・ 午後：京セラ本社にて講義および見学
見学後、京都駅で解散

本年は、コロナウイルスの蔓延防止措置に伴い、能州工場への見学が中止となりました。そのため京セラ本社で九州大学応用力学研究所 東藤貢先生の講義を拝聴したのち京セラ株式会社 本社を見学しました。東藤先生はバイオメカニクスの第一人者であり、これまでに行われてきた有限要素解析法による基礎研究や応用研究を含めた研究手法を講義していただき、今後の私どもの研究へのヒントを学ぶことができました。骨形態把握のための力学的モデルの基礎知識から THA 後の母床骨へのストレスの解析方法、THA 後のインプラント周囲骨折の応力解析など、普段我々が文献のみで得ている知識を直接ご講義いただいたことは大変貴重でした。



京セラ株式会社 本社ビル（京都府）

最後に

5 日間の国内研修は、自分自身の知識の再確認や新しい知見の勉強など、大変有意義な経験となりました。

今回このような機会をいただいた日本股関節研究振興財団 別府先生、佐賀大学 馬渡先生、産業医科大学若松病院 内田先生、産業医科大学 川崎先生、九州大学 東藤先生、京セラ株式会社 担当者様に心より御礼申し上げます。